

## 5. 平成26年度 事業報告

理事長 栗原 敏

### 1) 平成26年度の事業概要

平成26年度事業計画の基本方針、重点施策の達成に向けて取り組んだ。

#### 1. 教育に関する重点施策

##### 1) 質の高い医療人の育成

- ・卒前教育の改善と充実を図る。国際基準に基づく医学教育分野別外部評価を受審し、認証取得を目指す。

平成26年6月2日から6日に医学教育分野別外部評価を受審した結果、全体を通じて良好な評価であった。基本的水準では22項目が適合、12項目が部分的適合、不適合なしとなった。一方、質的向上のための水準では24項目が適合、10項目が部分的適合、不適合なし、2項目が評価せずとなった。

- ・卒後教育を改善して質の高い研修医とレジデントを育成する。総合診療医養成プログラムの充実を図る。

初期臨床研修における「へき地医療研修」を更に充実するために、研修医・地域医療研修指導者、学内指導者を対象としたセミナーを開催した。レジデントにおいては、1年目研修医を対象に屋根瓦教育方式のファカルティ・デベロップメント（FD）を開催した。また、総合診療医養成プログラムにおいては専門修得コースでの総合診療コースのカリキュラムの作成および大学院授業細目「地域医療プライマリ医学」を開講するなど充実を図った。

- ・看護学科・看護専門学校は、協力して卒業時の技術到達目標を明示する。

看護学科では、ステップアップノートの全項目をe-ポートフォリオに含め、実習終了後に担当教員と一緒に各技術到達状況の振り返りと新たな目標を立てることができた。また、4年生には、技術補完実習で臨床スタッフから直接指導を受ける環境を整え卒業時の技術到達目標が明確になった。ナーシングスキル日本版（e-ラーニング）を看護学科、看護専門学校で導入し、授業や自己学習の推進効果がみられたが、オリジナルな技術内容の検討には至らなかった。

慈恵、第三、柏の3看護専門学校では、統合実習終了後看護技術到達度状況調査を実施し、看護技術はほぼ全項目に亘り実施され前年度より向上することができた。学生の技術習得のためナーシングスキル日本版（e-ラーニング）を用いたオリジナルコンテンツを作成し、各自の技術練習はもとよりテスト機能を使った知識の確認も行うなど活用の幅が広がった。

看護部では、各病院で「臨地実習ハンドブック」の「看護技術習熟度表」を用いた実習で技術体験ができるよう指導した。看護学科の技術演習に第三病院の師長が参加し、患者役やアドバイザーを担い学生の技術習熟度を評価し到達度が上がるよう支援した。柏病院では看護専門学校教員と臨床側が一致した指導過程の展開ができるよう、看護部主任を中心としたコアメンバーで定期的に事例検討会を実施した。また、看護学科4年生の看護技術補完実習に4病院の看護師が指導者として参加し、学生の不安感軽減と卒業後の新人技術教育のヒントを得る機会を得た。

- ・看護学専攻修士課程は、看護学科、看護専門学校、および看護部と連携して教育者や専門看護師を育成する。

看護学専攻修士課程では、専門看護師課程の履修者1名が急性重症患者看護学専門看護師に認定された。また、専門看護師育成のために、成人看護学分野は急性期病棟、ICU、シミュレーション教育施設を、がん看護学分野は「腫瘍センターサロン」などの場を活用して、専門看護師などの協力を得て、演習、実習を行った。

看護学科FD委員会と修士課程FD委員会が合同で教育改革FDを開催し、看護専門学校では、臨地実習で学生の教育にあたる指導者育成のため、エデュケーションナース研修や看護部現任教育研修に協力した。また、基礎看護教育課程に携わる適任者任命のための情報交換を逐次実施し、教員養成研修受講につなげられるよう取り組んだ。

看護部では、第三病院所属の看護師が新たに看護学科教員となった。本院と葛飾医療センター所属の看護師が、がん看護専門看護師コースを修了すると共に、本院看護師が成人看護学（急性・重症看護専門看護師コース）に新たに入学した。

## 2. 研究に関する重点施策

### 1) 医学・看護学研究の推進

- ・各講座を中心に行われている特色ある伝統的研究と共に先進的研究を推進する。

先進的な研究を推進するため先端医学推進拠点群を新設し、5つのセンターを設置した。また、総合医科学研究センターに基盤研究施設を設置し研究機器の共同利用と臨床研究支援体制の整備を図った。

各講座との共同研究の推進を目的に総合医科学研究センター研究発表会を開催すると共に、萌芽的共同研究推進費研究奨励費、研究推進費による学内での研究を推進した。

- ・学内学外の研究連携を促進する。

臨床医学講座に所属する研究者と基礎医学講座、総合医科学研究センターに所属する研究者が共同し、学内共同研究のシーズ産生を目的とする東京慈恵会医科大学萌芽的共同研究推進費を拡充し合計5課題を実施した。なお、学外機関、施設との研究連携数は、共同研究19件、受託研究23件であった。

- ・研究者としての高い倫理観を涵養する。

臨床研究支援センターを新設し、研究の立案、データの解析と分析、研究の進捗のモニターや論文の執筆などを支援し、質の高い臨床研究論文が発表できる環境を整備した。さらに、「疫学研究に関する倫理指針」と「臨床研究に関する倫理指針」が統合され、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が平成26年12月22日に告示された。この指針では、研究者に対し研究に関する倫理ならびに実施に必要な知識の修得を求め、研究責任者に対し研究の適正な実施及び結果の信頼性の確保を求めている。このため、「臨床研究の信頼性確保のための講義」をシリーズとして2月より開始した。

- ・医療現場と連携して看護学研究を振興する。

本院ICUでは、看護学科教員および集中治療部医師との共同研究を行った。第三病院では、看護学科と看護専門学校と看護部で共同研究を進行させた。

看護学科では、第三病院看護部と第三看護専門学校との共同研究に取り組むと共に、慈恵看護研究発表会をはじめとする看護研究学会学術集会において成果を発表し、看護学専攻修士課程では、「看護研究学習会」として講義と相談会を開催し、看護部の看護研究を支援した。

第三看護専門学校では、第三地区看護共同研究プロジェクト委員会の下、看護部、看護学科と連携協力しながら研究活動ならびに学内外での発表を継続して実施した。

- ・総合医科学研究センターの充実を図る。

総合医科学研究センターを研究部門、支援部門、研究所で構成する組織に改編し、フォーラムの開催、支援部門でのユーザーアンケート実施、支援部門利用費の低額化、無料化を図るなど、センターの充実を図り、研究推進の対策を講じた。

また、業務評価システムとして、バランス・スコアカード（BSC）を一部で導入し、組織の活性化を図った。

- ・臨床研究支援センターを設立し、臨床研究を振興する。

臨床試験セミナーを頻回に開催し、臨床研究の啓発に取り組むと共に、臨床研究に関して生物統計学的事項に関する相談を開始した。また、倫理委員会事務局機能の一部を外委託して専門性を高めた。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が求める要件に合致するよう臨床研究の支援を充実させると共に、モニタリングと監査に対応すべく本院治験センターとの一体的な運営を図った。

- ・研究推進のための競争的研究資金の獲得を目指す。

平成26年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の研究プロジェクト「脳卒

中の集学的治療研究開発拠点の形成」を申請したが不採択となった。なお、当事業では平成22年度1件、23年度1件、24年度2件、25年度1件が採択され研究を継続している。

競争的資金の獲得を強化するために萌芽的共同研究推進費として学内公募を行った結果、22件の応募があり、そのうち5件を採択した。

平成26年度末の文部科学省科学研究費助成事業（科研費）の採択件数および総額は、合計151件、総額316,160千円（間接経費含む）であり、厚生労働省科学研究費補助および独立行政法人日本医療研究開発機構の研究開発費などの採択研究課題は、合計52件、総額201,537千円（間接経費含む）であった。

### 3. 医療に関する重点施策

#### 1) 医療安全の推進

- ・医療安全体制を検証し、さらに有効・効率的な医療安全体制を構築し、実践する。

医療安全教育の再構築を図る新たな試みとして、当院の診療部長、所属長、師長、セーフティマネージャーを対象とした「管理者のための医療安全・感染対策研修会」を企画、開催し、171名が参加した。医療安全・感染対策に関する知識を再確認し、医療現場の安全文化醸成に向け管理者としての役割を再確認する機会となった。

医療現場の安全文化やチームワーク強化の目的で、各部署よりTeam STEPPS推進メンバーを選出し、部署ごとの目標に取り組み、医療安全推進週間に報告会を開催した。また、ハイリスク症例カンファレンスの開催、さらに前年度から導入したRRS（ラピッドレスポンスシステム）では、全事例に対し多職種合同のフィードバック会議を開催するなど、システムの定着やチーム医療の質の向上を支援した。

附属4病院医療安全対策については、4病院セーフティマネジメント会議による情報共有と再発防止の実践、医療安全相互ラウンドを継続した。また、都内11私大病院から構成される私立医科大学病院医療安全推進連絡会議（COMPASS）の事務局を引き続き担当し中心的役割を担った。

医療の質向上と業務改善を目的とした慈恵・東大・早大の共同研究も継続し、研究成果を関連学会において発表した。

感染対策の推進では、私立医科大学感染対策協議会の事務局を本学が務め、国内における感染対策の中心的役割を担った。

附属4病院のインфекションコントロールチーム（ICT）を中心に定期的にミーティングを行い、相互ラウンドの実施など、組織、職種を超えた情報共有と感染防止対策の徹底を推進することができた。感染対策ベーシックコース、アドバンスコース、ガフキーカンファレンスなど、感染対策教育を積極的に行った。前年度より病棟ICTを立ち上げ、感染対策室と現場が協働して感染対策に取り組み、感染防止対策のさらなる徹底をめざして、クロスモニタリングやスピークアップなどTeam STEPPSのエッセンスを取り入れた目標を示し、医療現場への密接なフィードバックにより手指衛生指数の向上につなげる成果をあげた。

上記取組みにより、病院機能評価機構の訪問審査において、医療安全・感染対策双方の取り組みがS（秀でている）評価を得ることにつながった。

#### 2) 各附属病院の活性化と機能分化

##### ①救急体制の充実

- ・本院は救急体制を充実させ、新外来棟での救命救急センター設置を目指す。

時間外選定療養費を患者から徴収し、コンビニ受診を抑制することで、入院が必要となる救急患者の収容にマンパワーを投入することを計画したが、病床稼働率の向上までには至らなかった。

- ・柏病院は救命救急センターとしての機能を強化し、増床計画を進め地域医療に貢献する。

救急患者の受入体制を変更し、CCUホットラインは直接受入れる体制とし、三次救急は救急部医師、一次、二次はトリアージナースが対応する運用に変更したことで救急搬送件数が増加した。病床増床計画として進めていた4B病棟改修工事が完了し、12月20日より運用を開始し、これにより届出床は627床から664床となった。平成27年度4月の工事完了を目指し、4A病棟

改修工事を進捗させ、これにより柏病院の病床整備工事が完了する予定である。

## ②がん診療の推進

- ・ **がん診療に関する専門職者の育成に努め、本院と柏病院は「地域がん診療連携拠点病院」、葛飾医療センター、第三病院は「東京都がん診療連携協力病院」としての機能強化を図る。**

本院は、腫瘍センター事務局を中心に、地域がん診療連携拠点病院の指定要件整備と機能強化を推進した。前年度に開設された緩和ケア外来を外来棟地下1階の専用スペースに移設し、外部からの紹介を含む外来患者の受入れについて更なる改善が施された。その他、院内がん登録3,426件、がん相談1,134件、がんの普及啓発事業として、がんサポートブックの運用開始や市民公開講座3回の実績を残した。また、緩和ケアについての基本的な知識を習得するため、厚生労働省の指針に沿った「がんに携わる医師に対する緩和ケア研修会」を2回開催した。

葛飾医療センターは、東京都がん診療連携協力病院として、専門職者の育成に努めると共に、院内緩和ケアカンファレンス体制を整備し、院内がんカウンセリングの運用を開始した。院内がん登録件数も増加し、また、地域住民向けのがんに関する公開講座を継続開催するなど、総合的ながん診療体制の整備、拡充を推進した。

第三病院は、東京都がん診療連携協力病院として、化学療法、手術、放射線治療の集学的治療を実施した。また、院内緩和ケアカンファレンス体制を整備し、全がん登録を実施した。

柏病院は、地域がん診療連携拠点病院の指定を更新した。新要件に定められた、「緩和ケアの情報提供」、「緩和ケア専従医師の病棟回診参加」、「院内がん登録数・臓器別5年生存率の情報公開」に沿って、院内の運営体制を整備した。また、がん診療に携わる教職員に対し、厚生労働省の指針に沿った「緩和ケア研修会」を開催した。

- ・ **葛飾医療センターは、放射線治療・化学療法の再整備を図る。**

放射線治療および化学療法の再整備を目的とした別館増築工事が開始され、予定通りに進捗した。また、放射線治療装置の機種が決定し、次年度からの稼働に向け、行政官庁への届出、機器の調整、人員配置などのスケジュールを策定した。

## ③地域医療への貢献

- ・ **葛飾医療センターと第三病院は、地域医療ニーズに応えられるように診療体制の改善充実を図る。**

葛飾医療センターは、救急受入れ体制を見直し、救急搬送件数が前年より増加した。また、地域の健康管理、健康増進に貢献することを目的に公開セミナーを開催した。更に、地域からの要望が高い訪問看護ステーションへの支援策として、訪問看護ステーションからの相談や同行訪問に応じる体制を整えた。第三病院は、総合診療体制、救急医療体制の強化に向けた検討を行い、救急応需率（全日）は80.2%と高水準となった。

- ・ **医療連携の強化策を具体的に策定し実践する。**

本院は、前方連携を強化するための「web予約システム」の構築に向けた準備を進めた。また、後方連携を強化するため、近隣医療機関の情報を集約した「病院検索システム」の構築に向け取り組んだ。

葛飾医療センターは、地域医療機関との連携強化および情報共有を目的とした「登録医制度」を継続し、新たに4施設5名が追加登録された。また、医療連携フォーラムの開催、医療機関訪問の実施、南葛飾ネットワークによる病々連携および脳卒中地域連携パスなどの取り組みを推進した。

第三病院は、紹介率・逆紹介率向上WGを設置し対策を講じると共に、返書管理向上策を策定、運用するなど、地域連携強化の取り組みを推進した。

柏病院は、連携登録医制度を改定し、更新された全登録医療機関を個別訪問し前方連携の拡大を図った。また、保有する救急車を有効活用し、他医療機関への入院患者の積極的な搬送を行うことで後方連携病院との関係強化を推し進めた。また、医療連携フォーラムや地域訪問看護ステーションとの連携懇談会を開催し、在宅医療推進のための近隣医療機関、地域訪問看護ステーションとの連携強化を図った。

## ④その他（第三者評価、指導など）

本院は、平成27年2月に日本医療機能評価機構の訪問審査を受審した。医療安全・感染対策は卓越したプロセス、仕組みがあり、活動も十分行われているとの評価を受けた。また、大学の中期計画・中期目標と病院および各部署の業務目標（BSC）、更には、個人の業務目標と連動した目標管理について高い評価を得た。教育面は非常に優れており、特に事務系の職員に対する教育体制、能力評価について同様に高い評価を得た。

第三病院においても、平成26年12月に訪問審査を受審し、平成27年3月に認定証の交付を受けた。公開健康セミナーの開催など、地域に向けた医療に関する独自の教育、啓発活動や輸血、血液管理の適切な取組みにおいて高い評価を得た。

7年ぶりに本院で行われた厚生労働省などによる特定共同指導では、診療録の記載や保険算定上の指導を受けた。これらの指導事項の改善策を厚生労働省（関東信越厚生局）に提出した。

### 3) 職種間の協力体制の構築

#### ・チーム医療を構築するための人材育成を推進する。

附属4病院共に、医療安全、感染制御、褥瘡、緩和ケア、栄養サポート、虐待防止などのチーム医療活動および専門教育などを行い人材育成を推進した。また、本院は、所属長をはじめとする全管理者に対しTeam STEPPSの研修を実施し、医療安全・感染対策の周知、徹底および医療の質の向上を図った。葛飾医療センターは、新たに呼吸療法サポートチーム（RST）を発足し活動を開始し、第三病院は、看護外来を新たに設置すると共に、チーム医療功績表彰制度を施行した。

### 4) 適正な収支構造の確立

#### ・診療報酬改定の内容を詳細に分析し、適正なDPCの算定を行う。

本院は、他大学とのベンチマークや自院での診療報酬改定後の分析、検証を実施したが、医療収入の改善策までには至らなかった。しかしながら、一部のクリニカルパスを改定したことで、対出来高比較でマイナスとなる症例をプラスに転じることができた。葛飾医療センターは、診療報酬改定に伴い、クリニカルパスの疾病症例ごとに診療日数を見直した。また、医療の質を担保しつつ、DPCに適用したクリニカルパスの拡大を推進した。第三病院は、短期滞在手術基本料3を取得するためクリニカルパスを見直した。柏病院は、入院基本料3の算定に関わる医療、看護必要度の見直しや短期滞在手術などの算定による影響を分析すると共に、クリニカルパスの内容を見直すなど、診療報酬改定に伴うDPC請求の適正化を図った。

#### ・医薬品、医療材料の適正使用、ならびに後発薬品の採用を推進する。

本院は、コストマネジメント・プロジェクトを中心に、次年度より行う予定の診療科へのコスト削減対策の周知対策について準備を進めた。また、経費全般にわたる効率的かつ経済的視点での削減の取組みも行ったが、成果までには至らなかった。しかしながら、主管課を中心に材料の共同購入、後発薬品の段階的切替えを実施し経費抑制につなげた。

葛飾医療センターは、医療経費の削減に向けた取り組みとして、後発薬品への切替えおよび手術キットの見直しなどを推進した。また、医療材料の不動在庫などの上位品目のポスターを作成するなど、関係部署に対する経費抑制の広報活動を行った。

第三病院は、後発薬品対象20品目の切替えを実施し経費削減を進めると共に、医療収入と医療材料費の相関チェックを月次で実施し適正使用の評価を行った。

柏病院は、後発医薬品各19品目に切り替え、経費抑制を図った。また、電子カルテ導入に併せ、手術オーダの術式に応じたDRGセットや手術キットが選択できるよう改善し、オーダ発行時の効率化を図ると共に手術キットの内容を見直した。医療材料の不動在庫の見直し対策として、手術部を重点的に点検し経費削減を図った。

## 4. 法人運営に関する重点施策

### 1) 内部統制の強化

大学は本来、自主的、自立的組織であり、内部統制を適切に機能させることによって質の向上を図り、社会に対して情報発信することが求められている。基本原則として、行動憲章・行

動規範をはじめとする学内規程の周知とコンプライアンスの遵守徹底を図った。また、補助金監査では監査項目を増加し、業務監査においては規程類の整備状況の確認を行った。

6年間の中期目標・中期計画と年度ごとの事業計画については、法人運営会議、理事会、大学自己点検・評価委員会などによる助言とチェック機能を働かせ、達成状況の確認を行った。

本学では、公的研究費の不正な申請やJikei Heart Studyなど研究に対する問題が顕在化しており、内部統制の強化は不可避の最重要課題である。教職員が一丸となり当事者意識を持ち再発防止に向けたコンプライアンス強化のための具体的施策を実施したが今後も継続して推進していく。

## 2) 法令遵守の徹底

### ・コンプライアンス強化のために具体的施策を推進する。

前年度に発覚した科研費の不正な申請、受給などに関して、研究不正の再発防止策を策定し、教職員一人ひとりが高い意識とモラルを持ち行動するよう改善策を立案した。また、文部科学省が策定した「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」を教職員が遵守するよう周知徹底を図った。コンプライアンス（法令遵守）教育の一環として、「公的研究費の適正な申請・使用に係るファカルティ・デベロップメント（FD）」を開催し、合計738名の教職員が受講した。また、本学の構造、体質の検証、不正の再発を防ぐ体制強化、一人ひとりの意識改革を進めていくことを目的に教職員からの意見を募集する取り組みを強化した。

臨床研究の計画立案、実施から研究結果報告までを総合的に支援する組織として、「臨床研究支援センター」を4月に開設し、臨床研究を支援する体制を整備した。また、研究遂行能力および実施環境などを審査し、研究主任者として認定する「研究主任者認定制度」を大学独自で開始した。公的研究費の適正な申請、使用に係るFDの受講実績などを申請要件とし、認定後も毎年度の受講を必須とした。臨床研究および医学研究倫理教育の充実と研究推進体制の強化を目的に、学長を最高管理責任者として適正な研究推進のための体制構築を目的に、「研究倫理推進センター」と「研究適正化特別委員会」の新設や「研究者行動規範」の制定に向けた準備を進めた。

今後は医学研究倫理に関する教育の更なる充実を図り、適切に研究を遂行する環境の強化に向けて持続的に取り組む必要がある。

職場における法令や規則の違反行為および倫理違反行為の早期発見によるコンプライアンスの促進並びにこれらによる被害者の保護を目的に、教職員が安心して通報、相談をすることができるように公益通報制度をホームページに掲載した。一連の取り組みや制度は、大学、病院を規制する法令の遵守はもとより、教職員の法令遵守精神を涵養するための様々な取り組みを実施した。「新入職員の手引き」、「教員・医師ハンドブック」をはじめ「慈恵ニュース」、「The JIKEI」などの広報誌を介して周知徹底を図った。

個人情報の適正管理については、個人情報保護委員会を中心に個人情報保護に関わる全学的な取り組みの基本方針を定め、個人情報の管理、利用における大学、病院としての社会的責務を果たす活動として、個人情報保護管理体制の見直し、教職員に対する講習会の開催、本学以外での事例報告をもとにした注意喚起など継続的に指導、教育を実施した。

## 3) 安定した財政基盤の構築

### ・法人における収支構造の点検を行う。

今年度決算の帰属収支差額（利益）は予算を若干下回る結果となった。要因は、収入面で医療収入、補助金が予算を下回ったためである。但し、支出面でも各科目が予算を下回ったため、帰属収支差額は予算比若干のマイナスに止まった。支出が予算を下回った要因は、消費税率引上げの影響を多めに見積もったためである。

なお、例年通り他学（私立医科大学）の平成25年度決算状況を分析し、本学の強み、弱みをまとめて8月開催の夏季常任理事会に報告した。

### ・機関別の事業計画に基づく中期財務計画を策定する。

今年度は、西新橋キャンパス再整備計画を具体的に進める時期であったことから、例年8月に取りまとめる中期財務計画を前倒して作成し、6月に建築準備委員会メンバーに概要を説明

した。さらに詳細な長期資金計画を8月開催の夏季常任理事会に報告し、計画の財務的裏付けを12月の拡大教授会議に報告した。

・医療収入の増加と医療経費の削減を図り、堅調な財政基盤の構築を図る。

従前実施していた、四半期毎の4病院部門別原価計算分析に代え、原価計算ソフト Cost Manager の導入、運用を目指していたが導入には至らなかった。疾病別の原価計算、診療構造の推移などの分析を行い、経営陣や臨床現場のニーズに応じた価値ある情報を提供し医業利益の適正化を推進していくためには、収入については各病院事務部、支出についてはコストマネージメント・プロジェクトとの連携が求められる。

・医療通信技術（ICT）関連経費の適正化を図る。

第三病院情報システム保守費については、先行して導入した葛飾医療センターのIT機器類の故障発生状況を踏まえ、保守不要範囲を除外して契約を締結した。また、柏病院の電子カルテ導入に向け、葛飾医療センター、第三病院作業時のアプリケーションを再利用して作業費減額を図ると共に本院への導入を見据え各種アプリケーションを整備した。

・コストマネージメント・プロジェクトを中心に経費削減と効率化を図る。

医療材料、大型機器、薬剤、公共料金、人材の就労状況などを検討し、経費削減と効率化を図り、堅調な財政基盤を構築することを目的にコストマネージメント・プロジェクトの活動を継続して実施した。主な活動の一環として、本院と柏病院の収益構造を比較し、柏病院の利益率の高さについて要因を把握するため様々な分析を行った。

#### 4) 教職員の満足度向上と人材育成制度の強化

・職場環境の改善、充実を図る。

全教職員を対象に「教職員アンケート」を継続して実施した。職場の満足度、業務への意欲、問題意識などの把握と職場環境整備に必要なデータ収集と分析および職場改善のPDCAサイクルに反映することを目的に8月1日から8月30日までwebを利用して実施し、対象者5,979名に対する回答者は3,964名、回答率は66.3%（前年度比2.5ポイント減少）であった。分析結果は法人運営会議、所属長会議などに報告すると共に、9月に速報版として単集計結果を全教職員に周知した。また、勤続意欲分析および自由記載の回答分析を行い、機関、職種、年齢別の詳細な分析結果を12月に学内教職員に周知した。また、新たな取り組みとして施設、設備関連と職場環境の改善状況をテーマに3月に業務改善報告を行った。

現行研修については、中間管理職クラスの研修内容を見直し、今後の計画に反映させることとし、管理職5年目クラスを対象としたアセスメントと育成研修を計画、新規実施に向けた準備を進めた。

#### 5) マスタープランの策定

・西新橋キャンパス再整備については具体的に計画を推進する。

都有地(旧港工業高校跡地)の借地契約締結が東京都との手続き上の都合で平成26年10月となり、ボーリング調査などの現地調査が遅れた。そのため、基本設計期間が当初計画より約3ヶ月縮減されたが、平成27年3月末までに新病院(小児・周産期医療センター)(仮称)と新大学2号館(仮称)の基本設計を終え、ゼネコン各社へ発注図書(見積要項書、基本設計図書)を提示して、実施設計、施工のVE提案、見積提出の準備を進め、次年度当初に依頼する予定である。また、新外来棟の基本計画策定に向けた具体的な検討を開始した。

#### 6) 業務改善の推進

・労働生産性の向上に向けた対策を行う。

労働生産性向上WG活動を各機関に展開し、一人一日20分の時間創出を目標に、問題解決手法に関する研修、業務の洗い出しから改善項目の選定、対策を行った。全機関から計37部署の参画があり、それぞれWGを構成し年間を通して積極的な取り組みがみられた。年度末には成果報告会を開催し、活動に参画した全ての部署から成果が発表され大学役員を含め多くの職員の間で活動を共有できた。本活動は、時間創出のみならず、プロジェクトリーダーの育成や各部署における業務改善意識の浸透にもつながった。

- ・中期目標・中期計画実現のためにBSCの推進とPDCAサイクルを活用し、単年度事業計画を達成する。

各部署の業務目標を段階的にBSCで行う取り組みは、今年度より段階的に導入されることになり、人事課との協力体制のもと実現することができ、対象となる学内職員全70部署のうち48部署で作成され導入率は68.6%となった。部署別BSCを目標管理の核とし、大学の中期目標・中期計画、事業計画および各部署さらには個人の業務目標を連動させるカスケードの取り組みは、病院機能評価においても模範的な取り組みとして高い評価を得ることができた。

## 7) その他

- ・情報公開の推進、広報活動の充実のため本学の教育・研究内容および附属病院の診療内容などを社会にアピールすると共に病診連携、病病連携、同窓会員への情報発信に努める。

ホームページに「本学のコンプライアンスに向けた取り組み」および「公益通報制度」などを新規掲載すると共に定期的に更新した。また、広報誌やホームページなどを通じて、医療連携フォーラム、市民公開講座の開催など、地域のニーズに沿った活動の発信に取り組んだ。なお、講座、研究部門のプレスリリースについてサポートした結果、729件がメディアに掲載されるなど、本学の教育、研究内容および本院の診療内容を幅広く社会にアピールすることができた。

- ・大規模災害対策の再整備と事業継続計画（BCP）を策定する。

西新橋キャンパスにおいて大規模災害訓練を行った。災害対策本部を実際に立ち上げ、トリアージ訓練を行うと共に、芝消防署の協力のもと煙テント体験、消火器操作訓練、栄養部の非常食配布訓練などを実施した。本院においては、事業継続計画（BCP）策定委員会にて第1版BCPの見直しや更新を進めた。また、有事の際も業務継続が求められる看護部などの5部門に関わる部署別BCPの新規作成に向けた検討を進めた。

葛飾医療センターでは、BCP教育訓練の一環として、葛飾区総合防災訓練を行った。本訓練では、災害対策本部を立ち上げ、衛星電話、防災行政無線、デジタル無線など災害時の通信ツールを幅広く活用し、それぞれの機器操作、感度、利便性などを検証した。

第三病院では、有事の際の参集体制の充実を図るために、看護師寮の稼働率を高める暫定施策を講じ、新人以外の看護師の入寮体制を整備した。

なお、柏病院においてはBCP作成が遅延しており、早急な対応が求められる。

- ・地球温暖化防止関連法規を遵守し、エネルギーの有効利用とエコ活動を推進する。

「慈恵大学節電行動指針」に則り、大学全体で節電、エコ活動を継続した。節電対策を強化した平成23年度比の電気使用量は1.9%の増加に留め、エネルギー使用量の原油換算は前年度比0.4%減少した。また、高効率空調機器への更新、LED、Hf型蛍光灯などの高効率照明器具への更新、パッケージエアコン更新など節電効果が見込まれる設備投資を行い、消費電力を削減した。

一方、東京都環境確保条例に対するCO<sub>2</sub>削減量は、第一計画期間(平成22年度から平成26年度)の削減義務率8%に対する平均削減率が約9.5%となり目標を達成することができた。

今後も関連法規を遵守し、エネルギーの有効利用とエコ活動が文化、風土として学内に定着するよう活動を更に推進する。

## 2) 平成26年度の主な建設工事

### 1. 法人事務局

- |                             |           |
|-----------------------------|-----------|
| ① 大学本館前棟正面玄関前駐車場舗装補修工事      | 平成26年5月完了 |
| ② 大学本館東門搬入口舗装陥没部復旧工事        | 平成26年8月完了 |
| ③ 石綿含有保温材等の使用状況調査実施         | 平成26年9月完了 |
| ④ 看護師寮ガス給湯器更新工事【第1期/全3期】    | 平成27年2月完了 |
| ⑤ 大学本館前棟北面外壁タイル補修及び落下防護設置工事 | 平成27年3月完了 |
| ⑥ 大学管理棟建築設備定期検査是正工事         | 平成27年3月完了 |
| ⑦ 大学2号館横教職員用立体駐車場整備工事       | 平成27年3月完了 |
| ⑧ 大学1号館立体駐車場保全整備工事          | 平成27年3月完了 |



## 2. 西新橋校

- |                                      |            |
|--------------------------------------|------------|
| ① F棟屋外高圧受電設備受電計器用変圧器等更新工事            | 平成26年5月完了  |
| ② 大学1号館屋上構造鉄骨耐火被覆保護材修繕工事             | 平成26年6月完了  |
| ③ 消防設備点検（機器点検）整備工事【大学部門】             | 平成26年6月完了  |
| ④ 総合医科学研究センター研究室一部移転に伴う整備工事          | 平成26年6月完了  |
| ⑤ 大学2号館地下1階臨床研究支援センター新設工事            | 平成26年6月完了  |
| ⑥ ボイラ及び第一種圧力容器性能検査受検に伴う整備工事【大学部門】    | 平成26年10月完了 |
| ⑦ 自動ドア装置保守点検に伴う是正工事【大学部門】            | 平成26年11月完了 |
| ⑧ 高木会館機械室水冷式チラーユニット1号機整備工事           | 平成26年11月完了 |
| ⑨ 大学本館後棟屋上高架水槽及び南東系統給水主管更新工事         | 平成26年12月完了 |
| ⑩ 大学1号館地下1階実験動物研究飼育室4改修工事            | 平成26年12月完了 |
| ⑪ 消防設備点検（総合点検）整備工事【大学部門】             | 平成26年12月完了 |
| ⑫ 大学1号館小型貫流蒸気ボイラ点検整備工事               | 平成26年12月完了 |
| ⑬ 大学1号館コージェネレーション発電機NOxコンバータ取替工事     | 平成27年1月完了  |
| ⑭ 大学1号館GMP対応ベクター産生施設HEPA交換・環境測定      | 平成27年1月完了  |
| ⑮ 大学1号館アイソトープ実験研究施設空調ダクト清掃並びに風量調整工事  | 平成27年3月完了  |
| ⑯ 大学1号館空調機修理工事                       | 平成27年3月完了  |
| ⑰ 大学1号館GMP対応施設細胞産生施設バリデーションに伴う施設清掃作業 | 平成27年3月完了  |
| ⑱ 大学2号館塔屋雑用水高置水槽配管バルブ交換工事            | 平成27年3月完了  |
| ⑲ 高木会館2階学術情報センター准教授室新設工事             | 平成27年3月完了  |
| ⑳ F棟地下1階屋内消火栓スプリンクラーポンプ室消火栓ポンプ修理工事   | 平成27年3月完了  |
| ㉑ 寄附講座（先進内視鏡治療研究講座・先端医療情報技術研究講座）新設工事 | 平成27年3月完了  |
| ㉒ 大学1号館実験動物施設空調用HEPAフィルター取替工事        | 平成27年3月完了  |

## 3. 本院

- |                                    |           |
|------------------------------------|-----------|
| ① E棟非常用自家発電機整備工事                   | 平成26年5月完了 |
| ② 外来棟3階手術室21・22空調機更新工事             | 平成26年5月完了 |
| ③ 中央棟9階共同浴室床タイル修繕工事                | 平成26年5月完了 |
| ④ 中央棟非常用エレベーターロープ取替工事              | 平成26年5月完了 |
| ⑤ 中央棟地下2階備蓄倉庫用途改修工事                | 平成26年6月完了 |
| ⑥ 外来棟・中央棟オーダーリング用スイッチングHUB非常電源切替工事 | 平成26年6月完了 |
| ⑦ 消防設備点検（機器点検）整備工事【病院部門】           | 平成26年6月完了 |
| ⑧ E棟各所出入管理システム整備工事                 | 平成26年6月完了 |
| ⑨ 中央棟屋上PS室スプリンクラー設備修繕工事            | 平成26年6月完了 |
| ⑩ 中央棟患者用立体駐車場修繕工事                  | 平成26年7月完了 |
| ⑪ 外来棟（旧A棟）3階南側屋上他塗膜防水修繕工事          | 平成26年7月完了 |
| ⑫ 外来棟2階小児科外来内診察室4・測定室整備工事          | 平成26年7月完了 |
| ⑬ 中央棟屋上階消火栓ボックス補助散水栓配管修繕工事         | 平成26年7月完了 |
| ⑭ 中央棟6階無菌病棟薬浴室水フィルター交換作業           | 平成26年8月完了 |
| ⑮ E棟中央監視装置用リモートユニット整備工事            | 平成26年8月完了 |
| ⑯ 外来棟地下1階第1リニアック更新に伴う整備工事          | 平成26年9月完了 |
| ⑰ 外来棟空調洗浄作業（中央診療部門・診療支援部門他）        | 平成26年9月完了 |

⑱	E棟外壁点検調査作業	平成26年9月完了
⑲	外来棟1階エレベーター14号機地下ピット止水対策工事	平成26年9月完了
⑳	中央棟空調吹出口ルーバー交換工事	平成26年9月完了
㉑	外来棟(旧A・B棟)エレベーター挟み込み防止装置取付工事	平成26年9月完了
㉒	ボイラ及び第一種圧力容器性能検査受検に伴う整備工事【病院部門】	平成26年10月完了
㉓	病院非常照明設備点検整備工事	平成26年10月完了
㉔	外来棟(旧B棟)地下1階電気室高圧受電しゃ断器等更新工事	平成26年10月完了
㉕	外来棟(旧C棟)地下1階自動ドア更新工事	平成26年10月完了
㉖	外来棟地下2階非常用自家発電機整備工事	平成26年10月完了
㉗	特別高圧受変電設備整備工事	平成26年10月完了
㉘	E棟立体駐車場チェーンガイドレール他整備工事	平成26年11月完了
㉙	E棟屋上階冷却塔(CT-1～CT-3)整備工事	平成26年11月完了
㉚	自動ドア装置保守点検に伴う不具合箇所整備工事【病院部門】	平成26年11月完了
㉛	消防設備点検(総合点検)整備工事【病院部門】	平成26年11月完了
㉜	E棟別館2・3階空調機保守点検不具合箇所整備工事	平成26年11月完了
㉝	E棟1階防災センター防災監視盤火災通報装置盤整備工事	平成26年11月完了
㉞	病棟出入管理システム整備工事	平成26年12月完了
㉟	中央棟防災センター防犯カメラ主装置取替工事	平成26年12月完了
㊱	E棟1階母子センター防犯設備設置工事	平成26年12月完了
㊲	中央棟14階共同浴室浴槽更新工事	平成27年1月完了
㊳	中央棟地下3階排水処理室雑排水貯留槽ポンプ更新工事	平成27年1月完了
㊴	F棟耐震一次診断作業	平成27年1月完了
㊵	特別高圧変電設備監視ローカル用電源取替工事	平成27年1月完了
㊶	中央棟・E棟各所空調吹出口及び給排気口整備作業	平成27年1月完了
㊷	中央棟共聴設備整備新工事	平成27年1月完了
㊸	外来棟診療部門エリア火災感知器整備工事	平成27年1月完了
㊹	中央棟ゴンドラ設備保守点検不具合箇所整備工事	平成27年2月完了
㊺	中央棟・E棟トイレ系統排気ファン整備工事	平成27年2月完了
㊻	外来棟中央カルテ室カルテ管理システム機器更新工事	平成27年2月完了
㊼	外来棟(旧A・B棟)エレベーター耐震補強工事	平成27年2月完了
㊽	中央棟防災センター内防犯カメラ主装置取替工事	平成27年2月完了
㊾	中央棟・E棟各階浴室他系統排気設備整備工事	平成27年2月完了
㊿	中央棟6階無菌病棟各所水フィルター配管更新工事	平成27年3月完了
①	医療ガス供給設備整備点検【病院部門】	平成27年3月完了
②	外来棟地下2階中央階段下湧水槽ポンプ及び自動制御装置更新工事	平成27年3月完了
③	中央棟3階手術室OP6室凍結治療器導入に伴う医療ガス設備新設工事	平成27年3月完了
④	中央棟各所空調機自動制御機器保守点検における不具合箇所整備作業	平成27年3月完了
⑤	中央棟汚物処理室ベットパンウォッシャー用電源設置工事	平成27年3月完了
⑥	外来棟1階グリーンカウンター(検査説明窓口)呼出表示システム更新工事	平成27年3月完了
⑦	外来棟多目的トイレベビーシート増設工事	平成27年3月完了
⑧	E棟ハロンガスボンベ室ハロゲン化物貯蔵容器等交換工事	平成27年3月完了
⑨	地盤調査業務【西新橋キャンパス再整備計画】	平成27年3月完了
⑩	敷地測量調査及び官民境界確定業務【西新橋キャンパス再整備計画】	平成27年3月完了